

JSCA  
公認プログラム  
実施内容ガイドライン

-- 2016年度版 --

日本セーフティカヌーイング協会  
Japan Safe Canoeing Association

## 公認プログラム実施内容ガイドライン

このガイドラインは日本セーフティカヌーイング協会・公認プログラム実施規程に基づき、これを定める。  
以下の内容を変更する場合は、各プログラムの管轄委員会の承認を得、理事会に報告しなければならない。  
尚、このガイドラインは、誰もがいつでも入手可能なものである。

★JSCAパドリングテスト (PT) .....	1
★JSCAセーフティ&レスキュープログラム (SRP) .....	3
★JSCA-CPR講習 .....	4

### ■各プログラム管轄委員会

- JSCAパドリングテスト (PT) : 公認スクール委員会
- JSCAセーフティ&レスキュープログラム (SRP) : 公認スクール委員会
- JSCA-CPR講習 : 安全委員会

JSCA公認プログラム実施内容ガイドライン -- 2016年度版 --

2016年7月1日発行

発行：日本セーフティカヌーイング協会

編集：JSCA公認スクール委員会

JSCA教育普及委員会

JSCA安全委員会

## 【JSCAパドリングテスト(PT)】

### 1. 趣旨

一般愛好者に技術認定をすることにより、一般愛好者の目的意識を高め、技術向上を促進し、安全で楽しいカヌー活動を普及する。

### 2. 認定クラスと課題

クラス	種目	課題
パドル1	種目（艇種）は問わない	公認スクールにおける1日程度以上の静水基礎講習（前進、回転、後進）終了者
パドル2	1) カヤック ・リバーカヤック1人乗りもしくは ・シー(ツーリング)カヤック1人乗り	コンビネーション 前進→360°回転→前進
パドル3	2) オープンカヌー ・タンDEM1人操作もしくは ・リバーカヌー	コンビネーション 前進→180°回転→後進→180°回転→前進

※受験資格は問わない

### 3. 検定に関わる費用

クラス	受験料（認定料を含む）	認定証
パドル1	静水基礎講習代金に含まれる	認定者には認定カード発行
パドル2	1000円	
パドル3		

### 4. 実施要領

開催方法、検定員（公認スクール所属の該当種目指導員）、前漕者は下記の通りとする。

クラス	開催方法	前漕者	検定員
パドル1	静水基礎講習受講	—	ベーシックインストラクター以上
パドル2	・パドリングテスト単独実施 ・講習会の一環として（講習中適宜）実施 上記いずれの方法でもよい	インストラクター1以上（検定員兼務可）	インストラクター1以上
パドル3	・パドリングテスト単独実施		

## 5. 実施条件

各クラス共通で、下記の通りとする。

- ・基礎的技術を評価するため、外的影響がなるべく少ない静水を設定する
- ・また風の影響も注意し、風が強い場合は出来る限り向かい風で、やむを得ない場合は追い風で実施
- ・斜め風やオープンカヌーにおけるオン、オフサイドによる有利・不利は、採点上考慮する
- ・その他会場の諸条件により、最終的に担当検定員が判断する

## 6. 認定基準

各クラスの認定および採点の目安は下記の通りとする。

### ■パドル1

- ・公認スクールにおいて、前進、回転、後進を含めた静水基礎講習終了者で、達成度は問わない
- ・採点はしない

### ■パドル2

#### (1) 認定目安

- ・指導員のもと、講習受講が数日程度の経験を経た者が合格基準に達するであろう
- ・静水において基礎的な操作がある程度出来る者
- ・操作がぎくしゃくせず、整ってくる頃で、安定性が感じられるようになる
- ・風速1～2mの風を受けてもそれほど問題なく目的地へ到達できる位の実力である

#### (2) 採点目安

- ・課題を理解し、順序通りつなげているか
- ・効率の良い修正漕ぎをして目的を達成しているか
- ・全体としての安定感があるか

#### (3) 採点方法

- ・100点満点で75点以上を合格点とする
- ・講習の一環として実施の場合、講習全体を通して採点できる

### ■パドル3

#### (1) 認定目安

- ・指導員のもと、講習受講10日～2週間程度の経験を経た者が合格基準に達するであろう
- ・静水において基礎技術がスムーズに出来る者
- ・操作が安定し、静水面を自在に移動できる
- ・風速3～4m程度の風を受けても問題なく目的地へ到達できる位の実力である

#### (2) 採点目安

- ・リズムカルでスムーズな操作で目的を達成しているか
- ・水を十分に捕らえ、身体に無理の無い効率の良い操作をしているか
- ・速さと安定感の調和が保たれているか

#### (3) 採点方法

- ・100点満点で75点以上を合格点とする

## 【JSCAセーフティ&レスキュープログラム(SRP)】

### 1. 趣旨

一般愛好者へカヌー活動におけるセーフティ意識の普及を図る。技術習得というよりも基礎知識の普及を目的とする。

### 2. 講習内容

課程	内容
座学：約2時間	レスキューの原則、フィールドに潜む危険、装備、セルフレスキュー、レスキュー（静水、流水、海水）、コミュニケーション、その他
実習：約2時間	装備の正しい装着、漂流体験、レスキュー体験（セルフ、グループ等）、スローバグの扱い、ロープワーク、その他

※心肺蘇生法(CPR)等の応急処置、及びロールの実習講習は含まれていない

### 3. 実施要領

- (1) 講習担当講師は、所定の研修を修了した公認スクール所属のインストラクター1以上の指導員とする。
- (2) 講習は「座学」と「実習」を併せて1日の講習とする。

### 4. 受講料

協会発行のSRPテキスト代を含めて13,000円とする。

### 5. 修了証

講習修了者には、主催公認スクールよりSRPテキストに付帯した修了証が発行される。

## 【JSCA-CPR講習】

### 1. 趣旨

水辺の活動やマリンスポーツにおける安全普及を考え、一般の方々に対して普及員の養成活動を行うことを目的とする。

### 2. 講習内容（社会スポーツセンターガイドラインより）

1) 応急手当の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応急手当と救命処置</li> <li>2. 心臓や呼吸が止まってしまったら</li> <li>3. 救命のリレー</li> <li>4. 突然死を防ぐために</li> <li>5. 応急手当をまとめてみると</li> </ol>
2) 救命処置	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用）</li> <li>2. 救命処置の手順（心肺蘇生法とAEDの使用の手順）</li> <li>3. 気道異物の除去</li> <li>4. 子どもの救命処置</li> <li>5. 救命処置の年齢別比較</li> </ol>
3) 止血法その他の応急手当	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傷病者の管理法</li> <li>2. 搬送法</li> <li>3. 出血時の止血法</li> <li>4. けがに対する応急手当</li> <li>5. 熱傷（やけど）に対する応急手当</li> <li>6. 溺水（水の事故）に対する応急手当</li> <li>7. その他の手当</li> </ol>
4) その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 119番通報と救急車の呼び方</li> <li>2. 応急手当と感染症</li> <li>3. 応急手当の実施に伴う法的責任</li> </ol>

### 3. 実施要領

(1) 講習担当講師は、所定の研修を修了した公認スクール所属のベーシックインストラクター以上の指導員とする。

(2) 講習は「座学1時間＋実技2時間」の時間配分で実施し、試験は無い。

### 4. 諸費用

受講に関する費用は下記の通りとする。

テキスト代	講習料	認定及び登録料	合計
1080円	2160円	2160円	5400円

### 5. 認定証

講習修了者には、(財)社会スポーツセンター発行の普及員認定カードが後日授与される。

### 6. 認定有効期間

普及員：永年有効（但し、3年に1回の再受講が望ましい）